

証券コード 4932
2026年6月5日

株 主 各 位

東京都中央区日本橋室町四丁目6番2号
株 式 会 社 ア ル マ ー ド
代表取締役社長 保 科 史 朗

第26回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、当社第26回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、以下のウェブサイトアクセスの上、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

当社ウェブサイト（アドレス <https://www.almado.co.jp/>）

また、電子提供措置事項は、当社ウェブサイトのほか、東京証券取引所のウェブサイトにも掲載しておりますので、以下よりご確認ください。

東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

（上記の東証ウェブサイトアクセスいただき、「銘柄名（会社名）」に「アルマード」又は「コード」に当社証券コード「4932」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。）

なお、当日ご出席願えない場合は、書面（郵送）又はインターネットによって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討の上、2026年6月22日（月曜日）午後5時までに議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2026年6月23日（火曜日）午前10時
（開場時刻は午前9時30分）
2. 場 所 野村コンファレンスプラザ日本橋 大ホール
東京都中央区日本橋室町二丁目4番3号
日本橋室町野村ビル YUITO 5階
（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。）
3. 目的事項
報告事項 第26期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）事業報告、
計算書類報告の件
決議事項
第1号議案 剰余金処分の件
第2号議案 取締役3名選任の件
第3号議案 補欠取締役1名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、株主の皆様には、電子提供措置事項から下記事項を除いたものを記載した書面を一律でお送りいたします。

- ・事業報告の「業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況」
- ・計算書類の「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」


なお、電子提供措置事項に修正が生じた場合は、前記インターネット上の当社ウェブサイト及び東証ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。



## 議決権行使についてのご案内

株主総会における議決権は、株主の皆様の大切な権利です。株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権を行使してくださいませようお願い申し上げます。

議決権を行使する方法は、以下の3つの方法がございます。

|                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p><b>株主総会にご出席される場合</b></p> <p>議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。</p> <p>日 時</p> <p>2026年6月23日（火曜日）<br/>午前10時（受付開始：午前9時30分）</p> |  <p><b>書面（郵送）で議決権を行使される場合</b></p> <p>議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、ご返送ください。</p> <p>行使期限</p> <p>2026年6月22日（月曜日）<br/>午後5時到着分まで</p> |  <p><b>インターネットで議決権を行使される場合</b></p> <p>次ページの案内に従って、議案の賛否をご入力ください。</p> <p>行使期限</p> <p>2026年6月22日（月曜日）<br/>午後5時入力完了分まで</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 議決権行使書用紙のご記入方法のご案内

議決権行使書 株主番号 ○○○○○○○○ 議決権の数 XI 股

○○○○ 印中

××××年 ×月××日

○○○○○○○

ここに議案の賛否をご記入ください。

**第1・3号議案**

- 賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 反対する場合 >> 「否」の欄に○印

**第2号議案**

- 全員賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 全員反対の場合 >> 「否」の欄に○印
- 一部の候補者を反対する場合 >> 「賛」の欄に○印をし、反対する候補者の番号をご記入ください。

※議決権行使書用紙はイメージです。

### 議決権行使の取扱いについて

- (1) 書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。
- (2) インターネットと書面（郵送）により重複して議決権を行使された場合は、到着日時を問わず、インターネットによる議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。
- (3) インターネットにより複数回、議決権を行使された場合は、最後に行われた議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。



## インターネットによる 議決権行使のご案内

行使  
期限

2026年6月22日（月曜日）  
午後5時入力完了分まで

### ログインQRコードを読み取る方法 「スマート行使」

議決権行使コード及びパスワードを入力することなく  
議決権行使ウェブサイトログインすることができます。

- 1 議決権行使書用紙右下に記載のQRコードを  
読み取ってください。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

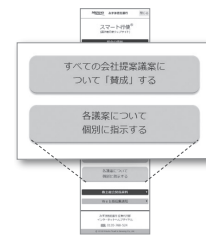


- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

「スマート行使」での議決権行使は**1回のみ**。

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですが  
PC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の  
「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、  
再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ  
遷移できます。



※議決権行使書用紙はイメージです。

インターネットと書面（郵送）の両方で議決権行使をされた場合は、インターネットによる議決権行使を有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。また、インターネットにより複数回、議決権行使をされた場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。

# 議決権行使コード・パスワードを 入力する方法

議決権行使  
ウェブサイト <https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>

- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



「次へすすむ」をクリック

- 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



「議決権行使コード」  
を入力

「次へ」をクリック

- 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



「パスワード」  
を入力

実際にご使用になる  
新しいパスワードを  
設定してください

「登録」をクリック

- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※操作画面はイメージです。

パソコンやスマートフォンのインターネットのご利用環境等によっては、議決権行使ウェブサイトがご利用できない場合があります。

## インターネットによる議決権行使に関するお問い合わせ

みずほ信託銀行 証券代行部 インターネットヘルプダイヤル

☎ 0120-768-524

(受付時間 年末年始を除く 9:00~21:00)

## 「スマートSR」について

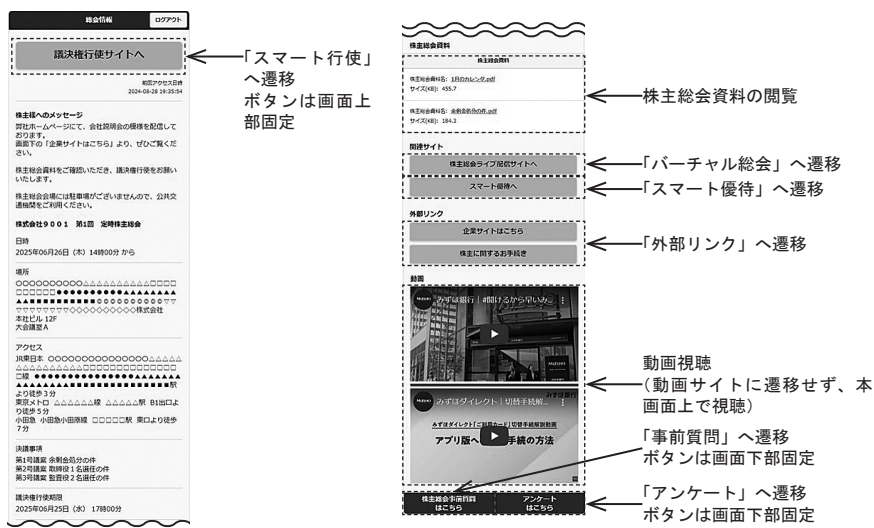
「スマートSR」とは、みずほ信託銀行が提供する、当社と株主様との対話のDX化を推進するWebサービスで、議決権行使書のQRコードを読み取ることで、IDパスワードの入力不要でログインでき、以下の機能をご利用いただけます。

|                                                |              |
|------------------------------------------------|--------------|
| 株主総会資料の閲覧                                      | 事前質問のご入力     |
| Web上での議決権行使<br>(スマート行使)                        | アンケートへのご回答   |
| スマートシリーズへのシングルサインオン<br>(スマート行使、バーチャル総会、スマート優待) | 動画視聴、外部リンク確認 |

また、株主総会資料の電子提供制度に対応しており、株主総会の3か月後までは24時間ご利用いただけます。

※実際にご提供する情報は発行会社により異なります。通信環境の影響等により「スマートSR」がご利用いただけない場合は、議決権行使書右片の裏面をご参照いただき、「議決権行使ウェブサイト」へログインのうえ、議決権行使をお願いいたします。

### 「スマートSR」画面イメージ（モバイル）



# 事業報告

(2025年4月1日から  
2026年3月31日まで)

## 1. 会社の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇の継続や金融・為替市場の変動、米国の通商政策の動向や地政学リスクの高まりなどにより、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況において、当社は3つの経営ビジョンの下(※1)、直販(EC)においては卵殻膜を配合したメンズスキンケア商品のTVCMを放映したことで新規顧客獲得数及び定期会員数が好調に推移し、またECモール販売も順調に拡大したことで、売上高は前期比で増加しました。外販(一般流通)では、ドラッグストア及びバラエティショップ導入店舗数が拡大したことで、売上高は前期比で大幅に増加しました。一方、外販(OEM販売)では、OEM先からの受注数が減少し、売上高は前期比で減少しました。TV通販は大型番組が予算未達となったことで、売上高は前期比で減少しました。営業利益は、外販(OEM販売)及びTV通販の不振に加え、直販(EC)での新規顧客獲得数の増加を狙った広告宣伝費の積極的運用により、前期比で減少しました。

その結果、当事業年度の経営成績は、売上高10,118,869千円(前期比19.4%増)、営業利益685,387千円(前期比27.6%減)、経常利益689,741千円(前期比26.4%減)、当期純利益518,389千円(前期比20.3%減)となりました。

※1・先進諸国に到来する高齢化社会において、人々の健康、若さ、そして美しさの維持・向上による“生活の質”の向上という根源的なニーズに、“卵殻膜”を通じて貢献する。

- ・卵殻膜の多機能な効果及び効能を科学的に解明し、常にユニークで最高品質の商品開発にこだわり、それを世界に提供する。
- ・“卵殻膜”で、美容と健康分野において、新しい価値観を浸透させる。

なお、当社は卵殻膜ヘルスケア事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の開示は行っておりませんが、売上高の販売チャネル別の内訳は、以下のとおりであります。

| 区 分         | 第 25 期<br>(2025年3月期)<br>(前事業年度) |              | 第 26 期<br>(2026年3月期)<br>(当事業年度) |              | 前事業年度比      |          |
|-------------|---------------------------------|--------------|---------------------------------|--------------|-------------|----------|
|             | 金 額<br>(千円)                     | 構 成 比<br>(%) | 金 額<br>(千円)                     | 構 成 比<br>(%) | 金 額<br>(千円) | 率<br>(%) |
| T V 通 販     | 1,190,750                       | 14.0         | 939,796                         | 9.3          | △250,953    | 78.9     |
| 外販（一般流通）    | 472,058                         | 5.6          | 866,406                         | 8.6          | 394,348     | 183.5    |
| 外販（OEM販売）※2 | 1,559,081                       | 18.4         | 894,854                         | 8.8          | △664,227    | 57.4     |
| 直 販 （ E C ） | 5,255,567                       | 62.0         | 7,417,812                       | 73.3         | 2,162,245   | 141.1    |
| 合 計         | 8,477,456                       | 100.0        | 10,118,869                      | 100.0        | 1,641,413   | 119.4    |

※2 OEM販売額のうち、インターネット販売を主としているOEM先への売上高

② 設備投資の状況

当事業年度に実施しました設備投資総額は33百万円で、主な内容は通信設備等の取得5百万円、ソフトウェアの改修27百万円です。

③ 資金調達の状況

該当事項はありません。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

| 区 分            | 第 23 期<br>(2023年3月期) | 第 24 期<br>(2024年3月期) | 第 25 期<br>(2025年3月期) | 第 26 期<br>(当事業年度)<br>(2026年3月期) |
|----------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------------------|
| 売 上 高 (千円)     | 6,528,885            | 7,538,775            | 8,477,456            | 10,118,869                      |
| 経 常 利 益 (千円)   | 837,106              | 963,280              | 936,687              | 689,741                         |
| 当 期 純 利 益 (千円) | 585,798              | 695,456              | 650,413              | 518,389                         |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 60.29                | 72.98                | 70.43                | 56.07                           |
| 総 資 産 (千円)     | 3,671,254            | 3,830,412            | 4,721,680            | 4,537,371                       |
| 純 資 産 (千円)     | 2,332,293            | 1,884,035            | 1,873,826            | 1,818,725                       |
| 1株当たり純資産 (円)   | 243.09               | 203.82               | 203.01               | 196.55                          |

- (注) 1. 「1株当たり当期純利益」は、期中平均株式数に基づいて算出しております。  
2. 「1株当たり純資産」は、期末発行済株式数に基づいて算出しております。  
3. 千円単位の項目に関しては、千円未満を切り捨てて表示しております。

(3) 対処すべき課題

対処すべき課題は次の4項目であると認識しております。

① 直販チャンネルを通じた売上及び利益の拡大

TVCM等の広告手法を積極的に採用するなど顧客獲得施策を継続的に実施し、顧客獲得効率の向上と顧客獲得数の増加を両立させ、売上規模の拡大を目指してまいります。また、獲得した顧客とのリレーションシップを強固にすることにより、定期購入顧客の継続率の向上及びクロスセル単価の向上を実現し、利益率向上を目指してまいります。

また、当社ブランドイメージの確立のため、ウェブデザイン、商品パッケージリニューアルなどのビジュアル面の最適化についても注力し、イメージ形成を推進してまいります。

② 新たな柱となる商品の開発

大学等の外部の研究機関と共同研究を継続することにより、より機能性の高い商品の開発を進めてまいります。

また、化粧品・健康食品等の既存商品について、卵殻膜の配合量、使い心地、香り等の継続的な改善・開発活動を行い、当社ビジネスの柱となる商品ラインナップの拡充を図ってまいります。

③ 新たな販路の開拓

当社商品の更なる認知度向上を図るべく、実店舗販売についても拡大を目指してまいります。また、OEMビジネスについても新たな販路開拓を進めてまいります。

④ 内部統制システムの強化

売上・利益の拡大を志向するのみならず、会社全体の業務プロセスの見直しを継続的に図り、内部統制をより一層充実させ、社会やステークホルダーの皆様から信頼を得られる企業を目指してまいります。

(4) 主要な事業内容 (2026年3月31日現在)

| 事業区分       | 事業内容                     |
|------------|--------------------------|
| 卵殻膜ヘルスケア事業 | 当社卵殻膜原料を活用した食品及び化粧品の製造販売 |

(5) 主要な事業所 (2026年3月31日現在)

|    |                    |
|----|--------------------|
| 本社 | 東京都中央区日本橋室町四丁目6番2号 |
|----|--------------------|

(6) 使用人の状況 (2026年3月31日現在)

| 使用人数 | 前期比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-------|-------|--------|
| 105名 | 24名   | 41.4歳 | 3年9ヶ月  |

(7) 主要な借入先の状況 (2026年3月31日現在)

| 借入先        | 借入額 (千円)  |
|------------|-----------|
| 株式会社りそな銀行  | 1,300,000 |
| 株式会社みずほ銀行  | 500,000   |
| 株式会社三井住友銀行 | 200,000   |

2. 株式の状況 (2026年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 48,000,000株  
 (2) 発行済株式の総数 10,394,000株  
 (自己株式 1,140,785株を含む)  
 (3) 株主数 10,596名  
 (4) 大株主

| 株 主 名                               | 持株数 (株)   | 持株比率 (%) |
|-------------------------------------|-----------|----------|
| 株 式 会 社 D A L M A                   | 1,540,000 | 16.64    |
| C B C 株 式 会 社                       | 1,225,000 | 13.24    |
| 株 式 会 社 オ ー ジ オ                     | 504,000   | 5.45     |
| 日本マスタートラスト信託銀行<br>株 式 会 社 ( 信 託 口 ) | 429,700   | 4.64     |
| 鈴 江 由 美                             | 350,000   | 3.78     |
| 保 科 史 朗                             | 115,837   | 1.25     |
| 高 橋 安 彦                             | 56,300    | 0.61     |
| 東 京 短 資 株 式 会 社                     | 53,100    | 0.57     |
| 出 口 嘉 津 久                           | 50,000    | 0.54     |
| アルマード従業員持株会                         | 47,244    | 0.51     |

- (注) 1. 当社は、自己株式を1,140,785株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(5) 当事業年度中に職務執行の対価として当社役員に対し交付した株式の状況

|                | 株 式 数 | 交付対象者数 |
|----------------|-------|--------|
| 取締役 (社外取締役を除く) | 一株    | 一名     |

### 3. 新株予約権等の状況

- (1) 当事業年度の末日において当社役員が保有している職務執行の対価として  
交付された新株予約権の状況

該当事項はありません。

- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権  
の状況

該当事項はありません。

#### 4. 会社役員 の 状況

##### (1) 取締役及び監査役の状況 (2026年3月31日現在)

| 会社における地位  | 氏 名       | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                                                                                                                                                                                  |
|-----------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長   | 保 科 史 朗   |                                                                                                                                                                                                          |
| 常 務 取 締 役 | 蕨 博 雅     | 管理管掌役員                                                                                                                                                                                                   |
| 取 締 役     | 阿 曾 勇 一 郎 | 営業管掌役員                                                                                                                                                                                                   |
| 取 締 役     | 大 和 田 寛 行 | 大和田公認会計士事務所代表<br>株式会社Stand by C 取締役<br>キャナルウエストコンサルティング合同会社<br>代表社員<br>平和不動産リート投資法人 監督役員<br>グリーンエックス株式会社 代表取締役                                                                                           |
| 常 勤 監 査 役 | 上 條 富 次 生 |                                                                                                                                                                                                          |
| 監 査 役     | 石 井 絵 梨 子 | 新幸総合法律事務所パートナー<br>カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人<br>監督役員<br>株式会社タムロン 社外取締役<br>株式会社Sun Asterisk 社外取締役 (監査等委<br>員)<br>アドバンス・プライベート投資法人 監督役員<br>いちごホテルリート投資法人 執行役員<br>イーレックス株式会社 監査役<br>株式会社スマートドライブ社外取締役 (監査<br>等委員) |
| 監 査 役     | 横 井 貴     | エイチコンサルティング株式会社 代表取締役<br>税理士法人エイチ 代表社員<br>監査法人みさご 代表社員                                                                                                                                                   |

- (注) 1. 取締役、大和田寛行氏は、社外取締役であります。
2. 監査役、上條富次生氏、石井絵梨子氏、横井貴氏は、社外監査役であります。
3. 取締役大和田寛行氏及び監査役横井貴氏は公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 監査役石井絵梨子氏は弁護士の資格を有しており、企業法務及び法律に関する相当程度の知見を有しております。
5. 当社は取締役大和田寛行氏、監査役上條富次生氏、石井絵梨子氏、横井貴氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

**(2) 責任限定契約の内容の概要**

当社と業務執行取締役等でない取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令で定める最低責任限度額としております。

**(3) 補償契約の内容の概要等**

該当事項はありません。

**(4) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等**

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は、当社のすべての取締役及び監査役であり、すべての被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約により被保険者が被る損害賠償金や争訟費用等が補償されることとなります。

ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行った場合には填補の対象としないこととしております。

(5) 取締役及び監査役の報酬等

| 区分              | 報酬等の額                 | 報酬等の種類別の総額            |         |                | 員数        |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|---------|----------------|-----------|
|                 |                       | 基本報酬                  | 業績連動報酬等 | 非金銭報酬等         |           |
| 取締役<br>(うち社外役員) | 93,994千円<br>(3,996)   | 87,745千円<br>(3,996)   | —       | 6,249千円<br>(—) | 4名<br>(1) |
| 監査役<br>(うち社外役員) | 15,984千円<br>(15,984)  | 15,984千円<br>(15,984)  | —       | —              | 3名<br>(3) |
| 合計<br>(うち社外役員)  | 109,978千円<br>(19,980) | 103,729千円<br>(19,980) | —       | 6,249千円<br>(—) | 7名<br>(4) |

- (注) 1. 株主総会決議による取締役の報酬限度額は年額120,000千円以内であります(2014年6月18日定時株主総会決議)。当該株主総会終結時点の取締役の員数は、7名であります。また、取締役の報酬には使用人兼務取締役の使用人分の給与は含まれておりません。
2. 株主総会決議による監査役の報酬限度額は年額30,000千円以内であります(2019年6月27日定時株主総会決議)。当該株主総会終結時点の監査役の員数は、4名であります。
3. 非金銭報酬等の内容は当社の株式であり、2024年6月27日開催の取締役会において決議された、当社の取締役(社外取締役を除く)を対象とした譲渡制限付株式報酬としての自己株式の割当であります。

(6) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

社外取締役大和田寛行氏は、大和田公認会計士事務所の代表、株式会社Stand by Cの取締役、キャナルウエストコンサルティング合同会社の代表社員、平和不動産リート投資法人の監督役員及びグリーンエックス株式会社の代表取締役であります。兼職先である大和田公認会計士事務所、株式会社Stand by C、キャナルウエストコンサルティング合同会社、平和不動産リート投資法人及びグリーンエックス株式会社と当社との間には特別な関係はありません。

社外監査役石井絵梨子氏は、新幸総合法律事務所のパートナー、カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人の監督役員、株式会社タムロンの社外取締役、株式会社Sun Asteriskの社外取締役（監査等委員）、アドバンス・プライベート投資法人の監督役員、いちごホテルリート投資法人の執行役員、イーレックス株式会社の監査役及び株式会社スマートドライブの社外取締役（監査等委員）であります。兼職先である新幸総合法律事務所、カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人、株式会社タムロン、株式会社Sun Asterisk、アドバンス・プライベート投資法人、いちごホテルリート投資法人、イーレックス株式会社及び株式会社スマートドライブと当社との間には特別な関係はありません。

社外監査役横井貴氏は、エイチコンサルティング株式会社の代表取締役、税理士法人エイチの代表社員及び監査法人みさごの代表社員であります。兼務先であるエイチコンサルティング株式会社、税理士法人エイチ及び監査法人みさごと当社との間には特別な関係はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

| 地位    | 氏名     | 出席状況、発言状況及び社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要                                                                                                                           |
|-------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役   | 大和田 寛行 | 出席状況、発言状況及び社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要<br>当事業年度に開催された16回の取締役会のすべてに出席いたしました。<br>主に公認会計士としての専門的見地に基づき、取締役会では当該視点から積極的に意見を述べており、意思決定の妥当性・適正性を確保するための適切な役割を果たしております。 |
| 常勤監査役 | 上條 富次生 | 当事業年度に開催された16回の取締役会及び14回の監査役会のすべてに出席いたしました。出席した取締役会及び監査役会において長年にわたる事業会社での経験と知見から適宜発言を行っております。                                                                  |
| 監査役   | 石井 絵梨子 | 当事業年度に開催された16回の取締役会及び14回の監査役会のすべてに出席いたしました。<br>出席した取締役会及び監査役会において、法曹界における知識及び経験に基づき、弁護士としての専門的見地から、適宜発言を行っております。                                               |
| 監査役   | 横井 貴   | 当事業年度に開催された16回の取締役会及び14回の監査役会のすべてに出席いたしました。<br>出席した取締役会及び監査役会において、主に財務・会計等に関し公認会計士としての専門的見地から適宜発言を行っております。                                                     |

## 5. 会計監査人の状況

(1) 名称 アーク有限責任監査法人

### (2) 報酬等の額

|                     | 報酬等の額    |
|---------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額 | 21,000千円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

### (3) 会計監査人の報酬等に監査役会が同意した理由

会計監査人であるアーク有限責任監査法人から説明を受けた当事業年度の監査計画に係る監査時間・配員計画から見積もられた報酬額の算出根拠等について、監査業務と報酬との対応関係が詳細かつ明瞭であることから、合理的なものであると判断いたしました。

### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、監査役監査規程等に基づき、適宜会計監査人の評価を実施し、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定します。また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役会は監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任します。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告します。

### (5) 補償契約の内容の概要等

該当事項はありません。

## 6. 会社の支配に関する基本方針

当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について、特に定めておりません。

しかしながら、株主の皆様から付託を受けた経営者の責務として、当社株式の取引の状況や株主構成の異動の状況等を常に注視しております。

万一、当社株式の大量買付を企図する者が出現した場合には、社外の専門家を交え、当該買付者の意図の確認、事業計画の評価及び交渉を行い、その上で具体的な対抗措置の要否及びその内容等を速やかに決定して開示します。

## 貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額       | 科 目            | 金 額        |
|-----------------|-----------|----------------|------------|
| (資産の部)          |           | (負債の部)         |            |
| <b>流動資産</b>     | 4,237,583 | <b>流動負債</b>    | 2,648,717  |
| 現金及び預金          | 1,623,397 | 買掛金            | 212,003    |
| 電子記録債権          | 159,783   | 短期借入金          | 2,000,000  |
| 売掛金             | 628,301   | リース債務          | 1,060      |
| 商 品             | 1,520,744 | 未払金            | 199,071    |
| 貯 蔵 品           | 195,329   | 未払費用           | 40,407     |
| 前払費用            | 77,955    | 未払法人税等         | 52,520     |
| その他             | 32,228    | 未払消費税等         | 60,143     |
| 貸倒引当金           | △157      | 預り金            | 7,066      |
| <b>固定資産</b>     | 299,788   | 賞与引当金          | 53,253     |
| <b>有形固定資産</b>   | 91,167    | その他            | 23,191     |
| 建 物             | 36,277    | <b>固定負債</b>    | 69,927     |
| 工具、器具及び備品       | 50,937    | リース債務(長期)      | 3,317      |
| リース資産           | 3,952     | 退職給付引当金        | 66,610     |
| <b>無形固定資産</b>   | 42,746    | <b>負債合計</b>    | 2,718,645  |
| 商 標 権           | 375       | (純資産の部)        |            |
| ソフトウェア          | 28,059    | <b>株主資本</b>    | 1,818,725  |
| ソフトウェア仮勘定       | 14,311    | 資本金            | 110,000    |
| <b>投資その他の資産</b> | 165,874   | 資本剰余金          | 20,394     |
| 長期前払費用          | 31,274    | その他資本剰余金       | 20,394     |
| 繰延税金資産          | 98,250    | <b>利益剰余金</b>   | 3,038,430  |
| 敷 金             | 36,340    | 利益準備金          | 27,500     |
| その他             | 10        | その他利益剰余金       | 3,010,930  |
| <b>資産合計</b>     | 4,537,371 | 別途積立金          | 110,000    |
|                 |           | 繰越利益剰余金        | 2,900,930  |
|                 |           | <b>自己株式</b>    | △1,350,099 |
|                 |           | <b>純資産合計</b>   | 1,818,725  |
|                 |           | <b>負債純資産合計</b> | 4,537,371  |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(2025年4月1日から  
2026年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目          | 金 額        |
|--------------|------------|
| 売上高          | 10,118,869 |
| 売上原価         | 2,494,642  |
| 売上総利益        | 7,624,227  |
| 販売費及び一般管理費   | 6,938,839  |
| 営業利益         | 685,387    |
| 営業外収益        |            |
| 受取利息         | 2,886      |
| 敷金償却戻入益      | 12,505     |
| キャッシュバック収入   | 16,144     |
| 雑収入          | 1,052      |
|              | 32,589     |
| 営業外費用        |            |
| 支払利息         | 27,648     |
| 自己株式取得費用     | 396        |
| 為替差損         | 156        |
| 雑損失          | 34         |
|              | 28,236     |
| 経常利益         | 689,741    |
| 税引前当期純利益     | 689,741    |
| 法人税、住民税及び事業税 | 194,449    |
| 法人税等調整額      | △23,097    |
| 当期純利益        | 518,389    |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2026年5月21日

株式会社アルマード  
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人

東京オフィス

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 松浦大樹

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 海老澤弘毅

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社アルマードの2025年4月1日から2026年3月31日までの第26期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2025年4月1日から2026年3月31日までの第26期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審査の上、本監査報告書を作成し、以下の通り報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社において業務及び財産の状況を調査いたしました。
  - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正性を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適切な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準（平成17年10月28日企業会計審議会）等」に従って、整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人アーク有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2026年 5月22日

株式会社アルマード 監査役会

常勤監査役（社外監査役） 上條 富次生 ㊟

社外監査役 石井 絵梨子 ㊟

社外監査役 横井 貴 ㊟

以 上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

当社は株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと考え、安定配当の維持を基本としながら、今後の事業展開等を勘案して、以下のとおり剰余金の処分をいたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金42円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は388,635,030円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
2026年6月24日といたしたいと存じます。

**第2号議案 取締役3名選任の件**

取締役全員は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役3名の選任をお願いしたいと存じます。

なお、取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者<br>番号                                                                                                                                                                                             | 氏 名<br>(生年月日)                             | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                              | 所有する<br>当社の<br>株式数 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 1                                                                                                                                                                                                     | <p>わらび ひろまさ<br/>蕨 博雅<br/>(1982年9月14日)</p> | <p>2006年12月 あらた監査法人（現PwC Japan有限責任監査法人）入所</p> <p>2014年3月 デロイトトーマツコンサルティング合同会社入社</p> <p>2016年1月 岡三証券株式会社入社</p> <p>2018年8月 当社入社</p> <p>2018年9月 当社総合企画室長</p> <p>2019年6月 当社取締役 管理企画管掌役員</p> <p>2022年4月 当社取締役 企画・製造管掌役員兼任</p> <p>2022年6月 当社常務取締役 管理管掌役員（現任）</p> | 13,966株            |
| <p><b>【選任理由】</b><br/>蕨博雅氏は、監査法人や証券会社勤務時に培った知識・経験を生かし、当社上場の際に大きな貢献をいたしました。また、公認会計士の資格を有しており、経理財務分野における豊富な知見と事業運営上の問題解決能力及び指導力を有しております。以上のことから、今後の当社の持続的な成長のために適切な人材と判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。</p> |                                           |                                                                                                                                                                                                                                                            |                    |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 所有する<br>当社の<br>株式数 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 2     | はせべ ゆきお<br>長谷部 由紀夫<br>(1937年3月27日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 2000年10月 当社設立 代表取締役社長<br>2006年5月 当社代表取締役会長<br>2015年11月 株式会社DALMA代表取締役(現任)<br>2017年9月 当社代表取締役会長退任                                                                                                                                                                                                                                               | 1,540,000<br>株     |
|       | <p>【選任理由】</p> <p>長谷部由紀夫氏は当社創業者であり、創業以前から卵殻膜の可能性に着目し、その研究開発および事業化に強い信念と熱意をもって取り組み、当社の事業基盤の構築および企業価値の向上に貢献してまいりました。2017年に当社代表取締役会長を退任しましたが、その後同氏との間で業務委託契約を締結し、当社の研究部門の中核的存在として長きに亘り卵殻膜研究の指揮を執り続けております。また各大学の教授に対し強いリーダーシップを発揮する等、高いプロジェクト遂行能力を備えております。当社事業に関する深い知見、豊富な経験および創業者としての強い使命感を有しており、これらを当社の経営に活かすことが、当社の持続的な成長および中長期的な企業価値の向上に資するものと判断し、取締役として選任をお願いするものであります。なお、長谷部由紀夫氏は新任の取締役候補者であります。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                    |
| 3     | おおわだ ひろゆき<br>大和田 寛行<br>(1976年4月10日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 1999年4月 アメリカンファミリー生命保険会社入社<br>2002年10月 中央青山監査法人入社<br>2006年6月 あらた監査法人(現PwC Japan有限責任監査法人)入社<br>2007年7月 野村証券株式会社入社<br>2009年4月 大和田公認会計士事務所代表(現任)<br>2014年11月 株式会社Stand by C取締役(現任)<br>2015年1月 キャナルウエストコンサルティング合同会社 代表社員(現任)<br>2019年6月 当社社外取締役(現任)<br>2023年8月 平和不動産リート投資法人監督役員(現任)<br>2024年12月 株式会社ビジコンネクスト社外取締役<br>2025年5月 グリーンエックス株式会社代表取締役(現任) | — 株                |
|       | <p>(重要な兼職の状況)</p> <p>大和田公認会計士事務所代表<br/>株式会社Stand by C 取締役<br/>キャナルウエストコンサルティング合同会社 代表社員<br/>平和不動産リート投資法人監督役員<br/>グリーンエックス株式会社代表取締役</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                    |

**【選任理由及び期待される役割の概要】**

大和田寛行氏は、公認会計士・税理士として財務会計に関する豊富な経験と幅広い見識を有しており、かかる知識・経験に基づいた当社経営に対する監督及び意見を期待しております。以上のことから、今後の当社取締役会の機能強化が期待されるため、引き続き社外取締役として選任をお願いするものであります。

- (注) 1. 各候補者と当社の間にはいずれも特別の利害関係はありません。
2. 長谷部由紀夫氏の所有する当社の株式数は、同氏が代表取締役を務める資産管理会社（株式会社DALMA）の所有株式数と合算して記載しております。
3. 大和田寛行氏は、社外取締役候補者であります。
4. 大和田寛行氏は、現在当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は本総会終結の時をもって7年になります。
5. 当社は、社外取締役大和田寛行氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は、当社のすべての取締役及び監査役であり、すべての被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約により被保険者が被る損害賠償金や争訟費用等が補償されることとなります。ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行った場合には填補の対象としないこととしております。各候補者が取締役に再任され就任した場合には、引き続き当該保険契約の被保険者となります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容で更新を予定しております。

**第3号議案 補欠取締役1名選任の件**

法令に定める取締役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠取締役1名の選任をお願いしたいと存じます。

なお、補欠取締役候補者は、次のとおりであります。

| 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                       | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                    | 所有する<br>当社の<br>株式数 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| やまだ あらた<br>山田 新<br>(1980年12月15日)                                                                                                                                   | 2005年11月 中央青山監査法人(現PwC Japan有限責任監査法人)入所<br>2011年3月 株式会社ディー・エヌ・エー入社<br>2013年7月 税理士法人オフィス921入社<br>2014年3月 山田新公認会計士税理士事務所代表(現任)<br>2024年5月 静岡県議会議員(現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>山田新公認会計士税理士事務所代表<br>静岡県議会議員 | 一株                 |
| <p><b>【選任理由】</b></p> <p>山田新氏は、公認会計士・税理士として経営の監督とチェック機能を適切に遂行する能力を有しており、かかる知識・経験に基づいた有用な意見・助言を経営戦略に反映させることを期待しております。</p> <p>以上のことから、補欠の社外取締役として選任をお願いするものであります。</p> |                                                                                                                                                                                                  |                    |

- (注) 1. 山田新氏と当社の間にはいずれも特別の利害関係はありません。
2. 山田新氏は、補欠の社外取締役候補者であります。
3. 山田新氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、同氏が社外取締役に就任した場合には、同氏を同取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出る予定であります。
4. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は、当社のすべての取締役及び監査役であり、すべての被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約により被保険者が被る損害賠償金や争訟費用等が補償されることとなります。ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行った場合には填補の対象としないこととしております。山田新氏が社外取締役に就任した場合、同氏は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。

以上



## 株主総会会場ご案内図

会 場：野村コンファレンスプラザ日本橋 大ホール  
東京都中央区日本橋室町二丁目 4 番 3 号  
日本橋室町野村ビル YUITO 5 階



### 交通のご案内

地下鉄—東京メトロ 銀座線・半蔵門線 三越前駅(A 9 出口)徒歩約 1 分  
J R 線—総武本線 新日本橋駅(1 番出口)徒歩約 4 分

銀座線・半蔵門線三越前駅、JR新日本橋駅からは、地下道でYUITOに直結しています。